
INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO **iDWR**

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2012年第6週
(2月6日～2月12日)

- * 2012年2月15日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- * 今週は感染症豆知識「肉の生食について(新制度の周知)」も掲載しています。

平成24(2012)年2月16日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター疫学情報室

電話：03-3363-3213(直通)

FAX：03-5332-7365

e-mail：idsc@tokyo-eiken.go.jp

全数把握対象疾患 報告数 2012年6週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)				年累計	全国(診断週)	
		3週	4週	5週	6週		6週	年累計
一 類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二 類	急性灰白髄炎							
	結核	91	87	67	63	417	337	2,626
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 *1							
	鳥インフルエンザ(H5N1)							
三 類	コレラ							1
	細菌性赤痢	2	2		2	6	4	18
	腸管出血性大腸菌感染症				1	2	4	72
	腸チフス				1	1	1	1
	パラチフス				1	2	1	2
四 類	E型肝炎	1			1	3	2	19
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎						1	9
	エキノコックス症							1
	黄熱							
	オウム病							
	オムスク出血熱							
	回帰熱							
	キャサヌル森林病							
	Q熱							
	狂犬病							
	コクシジオイデス症							
	サル痘							
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	チクングニア熱							
	つつが虫病			1		1	6	56
	デング熱	1	2			5	2	16
	東部ウマ脳炎							
	鳥インフルエンザ(H5N1を除く)							
	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱							
	日本脳炎							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	発しんチフス							
	ボツリヌス症							
	マラリア	1				1	1	3
	野兎病							
	ライム病							
リッサウイルス感染症								
リフトバレー熱								
類鼻疽								
レジオネラ症	2		3	1	6	11	73	
レプトスピラ症					1		1	
ロッキー山紅斑熱								

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		3週	4週	5週	6週	年累計	6週	年累計
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢	2	5	4	5	20	15	94
	ウイルス性肝炎(A型・E型を除く)		2	2	1	6		15
	急性脳炎 *2	3	1	1		6	6	68
	クリプトスポリジウム症		1			1	1	2
	クロイツフェルト・ヤコブ病					1	2	17
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症					1	4	37
	後天性免疫不全症候群	10	13	8	8	53	16	137
	ジアルジア症						1	2
	髄膜炎菌性髄膜炎							2
	先天性風しん症候群							
	梅毒	6	6	5	7	32	13	81
	破傷風							12
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1		1		3		8
	風しん	2	3	2	1	8	2	27
麻しん	1		1	2	7	13	47	
2012/2/15集計								

*1 病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

*2 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

(全数把握対象疾患のコメント)

〈二類感染症〉

結核 63件 肺結核 33件、その他の結核 30件、年齢は5歳未満 4件、20代 4件、30代 13件、40代 12件、50代 6件、60代 9件、70代 8件、80代 2件、90歳以上 5件、推定感染地は国内 60件、ソマリア 1件、国内又は国外(渡航先不明) 2件であった。

〈三類感染症〉

細菌性赤痢 2件 患者 1件、無症状病原体保有者 1件、年齢は40代 1件、50代 1件、菌種はソネネ 1件、フレキシネル 1件、推定感染地は国内 1件、ギニアビサウ 1件、推定感染経路は経口感染 1件、その他(不明) 1件であった。

腸管出血性大腸菌感染症 1件 無症状病原体保有者、血清型・毒素型はO血清型不明VT1、年齢は30代、推定感染地は国内、推定感染経路は経口感染であった。

腸チフス 1件 患者、年齢は5～9歳、推定感染地はバングラデシュ、推定感染経路は経口感染(生水)であった。

パラチフス 1件 患者、年齢は20代、推定感染地はインド、推定感染経路は経口感染であった。

〈四類感染症〉

E型肝炎 1件 患者、年齢は70代、推定感染地は国内、推定感染経路は経口感染(豚レバー)であった。

レジオネラ症 1件 肺炎型、年齢は20代、推定感染地は国内、推定感染経路は水系感染(温泉)であった。

〈五類感染症〉

アメーバ赤痢 5件 腸管 4件、腸管外 1件、年齢は20代 1件、30代 1件、40代 2件、60代 1件、推定感染地は国内 5件、推定感染経路は性的接触(異性間) 1件、経口感染又は性的接触 1件、その他(不明) 3件であった。

ウイルス性肝炎 1件 B型、年齢は40代、推定感染地は国内、推定感染経路は性的接触(異性間)であった。

後天性免疫不全症候群 8件 AIDS 1件、無症候キャリア 7件、AIDS患者の年齢は40代、無症候キャリアの年齢は20代 1件、30代 2件、40代 3件、50代 1件、推定感染地は日本 6件、タイ 1件、不明 1件、推定感染経路は性的接触 8件(同性間 5件、異性間 3件)であった。無症候キャリアの1件は、梅毒(第6週報告)との重複感染を認めている。

梅毒 7件 早期顕症梅毒Ⅰ期 1件、早期顕症梅毒Ⅱ期 5件、無症候梅毒 1件、年齢は20代 2件、30代 3件、40代 1件、50代 1件、推定感染経路は性的接触 7件(同性間 4件、異性間 2件、性別不明 1件)であった。

風しん 1件 臨床診断例、年齢は20代、推定感染地は国内、推定感染経路はその他(不明)、風しん含有ワクチン接種歴は不明であった。

麻しん 2件 検査診断例 2件、年齢は5歳未満 1件、30代 1件、推定感染地はそれぞれ国内又はベトナム 1件、国内 1件、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染又は接触感染 1件、その他(不明) 1件、麻しん含有ワクチン接種歴は1回接種 1件、接種なし 1件であった。5歳未満の症例は麻しん遺伝子検査でD4型が検出された。

※ 第5週該当分として、五類 後天性免疫不全症候群1件の追加報告があった。

定点把握対象疾患 報告数 2012年6週

定点種別	対象疾患	2012年					報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		3週	4週	5週	6週	定点当たり		
小児科	RSウイルス感染症	74	87	68	62	0.24	263	264
	咽頭結膜熱	52	54	60	34	0.13		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	551	612	529	432	1.64		
	感染性胃腸炎	3,328	2,543	2,062	1,679	6.38		
	水痘	384	377	278	309	1.17		
	手足口病	21	14	12	13	0.05		
	伝染性紅斑	70	51	71	46	0.17		
	突発性発しん	138	126	124	101	0.38		
	百日咳	2	8	6	6	0.02		
	ヘルパンギーナ	4	6	7	5	0.02		
	流行性耳下腺炎	43	50	39	39	0.15		
	川崎病 (注1)	5	7	4	2	0.01		
不明発しん症 (注1)	18	19	15	14	0.05			
インフルエンザ	インフルエンザ (注2)	6,146	13,473	18,939	18,210	43.67	417	419
眼科	急性出血性結膜炎						38	39
	流行性角結膜炎	18	22	20	21	0.55		
基幹	細菌性髄膜炎 (注3)	2	2		1	0.04	25	25
	無菌性髄膜炎	1	3	3	1	0.04		
	マイコプラズマ肺炎	20	19	19	17	0.68		
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)							
	インフルエンザ入院 (注4)	21	55	90	89	3.56		

2012/2/15集計

(注1) 不明発しん症、川崎病 は東京都が独自に指定する疾患である。

(注2) 鳥インフルエンザを除く。

(注3) 髄膜炎菌性髄膜炎を除く。

(注4) 2011年36週より開始

(今週の注目される定点把握対象疾患)

- ・ **インフルエンザ**の定点あたりの報告数はやや減少したが、依然として高い値が続いている。
- ・ **インフルエンザ入院**の定点あたりの報告数は前週とほぼ同じ値となり、高い値で推移している。

(小児科・内科定点医療機関からのコメント)

墨田区

- ・インフルエンザ流行施設より来院したが、アデノウイルスの扁桃炎であった者1名。
- ・感染性胃腸炎2名中、ロタウイルス陽性1名。
- ・4歳にRSウイルスの検査は通常しないが、発熱プラス初回の喘鳴聴取で、インフルエンザの迅速診断陰性だったので、追加で検査したらRSウイルス陽性。

世田谷区

- ・アデノウイルス迅速診断キット陽性3名。

荒川区

- ・感染性胃腸炎12名中、ロタウイルス陽性 6名。
- ・感染性胃腸炎 病原性大腸菌O18、O74 各1名。

板橋区

- ・感染性胃腸炎 病原性大腸菌O86a 1名。
- ・感染性胃腸炎 病原性大腸菌O6、O18 各 1名。

※ インフルエンザの迅速診断結果及びコメントは14頁にまとめて記載しました。

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2012年6週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
～6か月	20			20	1			1		
～1歳	12	1	2	76	17			44	1	1
1歳	19	7	5	260	45	5	2	49		1
2歳	8	5	19	141	56	4	2	4		
3歳	2	6	47	145	57		6	2		
4歳	1	5	83	142	52	3	10		1	1
5歳		3	56	124	37		9	1		
6歳		6	56	91	19		9			
7歳		1	46	85	7		1			
8歳			42	64	5		1			
9歳			25	77	3	1	5			1
10～14歳			36	185	6		1			
15～19歳			1	43						
20～29歳			14	226	4				4	1
30～39歳										
40～49歳										
50～59歳										
60～69歳										
70～79歳										
80歳以上										
合計	62	34	432	1,679	309	13	46	101	6	5
先週比	-25	-20	-180	-864	-68	-1	-5	-25	-2	-1

注：小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性耳下腺炎	川崎病	不明発しん症	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
～6か月				38		
～1歳			4	119		
1歳	4	1	2	538		
2歳	2		3	679		1
3歳	4			1,030		3
4歳	8		1	1,521		
5歳	4	1		1,588		
6歳	6		3	1,514		1
7歳	1			1,368		
8歳	3			1,169		
9歳	1		1	982		
10～14歳	4			3,082		3
15～19歳	1			651		
20～29歳	1			720		1
30～39歳				1,297		4
40～49歳				1,018		2
50～59歳				368		1
60～69歳				290		4
70～79歳				168		1
80歳以上				70		
合計	39	2	14	18,210		21
先週比	-11	-5	-5	4,737		-1

注：小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

全数把握対象疾患 (風しん、麻しん)報告数 【年齢階級別】 2012年6週

	風しん	麻しん
0歳		
1歳		1
2歳		
3歳		
4歳		
5歳		
6歳		
7歳		
8歳		
9歳		
10～14歳		
15～19歳		
20～29歳	1	
30～39歳		1
40～49歳		
50～59歳		
60～69歳		
70～79歳		
80歳以上		
合計	1	2

定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2012年6週

定点種別	小児科									
	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ
千代田				2	7					
中央区		1	5	17	2			1		
みなと	2	5	6	48	8		2	3	1	
新宿区	5	1	4	26	2			1		
文京			7	16	3			2		
台東	1		2	37	1		3	2		
墨田区	6		4	13	6		1	1		
江東区	2	3	22	94	23		5	9		
品川区			18	70	2		2	2		
目黒区	2		2	11	2					
大田区	5	4	27	119	33		3	3	2	
世田谷	2	3	21	99	11		1	2		
渋谷区				18	2	1	1	1		
中野区	1		4	70	10			2		1
杉並			19	56	13		1	2		
池袋			2	7	2					
北区			2	32	1			4		
荒川区	3	3	8	37	5		1	2		1
板橋区		2	7	40	4	1	1	4		
練馬区		1	24	84	16		1	6	3	
足立	1	1	13	89	12	1	2	5		
葛飾区	1	3	16	66	7					
江戸川	2	4	23	113	14		1	8		1
八王子市	4		53	93	34		5	10		
町田市	7		33	76	9	9		3		
西多摩	1		23	30	7			2		
南多摩	5	1	8	57	8		2	4		2
多摩立川	5	1	25	56	25			3		
多摩府中	4		30	96	26		10	10		
多摩小平	3	1	24	105	14	1		9		
島しょ				2			4			
東京都合計	62	34	432	1,679	309	13	46	101	6	5

全数把握対象疾患
(風しん、麻しん)報告数

【保健所別】2012年6週

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	川崎病	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田	1			98		
中央区	2			135		3
みなと				267		
新宿区	1			330		
文京	1			237		
台東	3			280		
墨田区				204		
江東区	2		3	661		1
品川区				397		1
目黒区	1			141		
大田区	3		1	1,136		
世田谷			2	1,030		
渋谷区	1			131		4
中野区	2			349		
杉並	3			525		
池袋				230		1
北区	4			410		
荒川区				442		
板橋区			1	368		
練馬区	4			1,081		1
足立				766		2
葛飾区	1		2	652		
江戸川	1			818		
八王子市	3			1,224		2
町田市	2		1	825		
西多摩				772		
南多摩	1			803		
多摩立川	2	1	1	844		1
多摩府中		1	1	1,463		
多摩小平	1		2	1,501		5
島しょ				90		

	風しん	麻しん
千代田		
中央区		
みなと		1
新宿区		
文京		
台東		
墨田区		
江東区		
品川区		
目黒区		
大田区		1
世田谷		
渋谷区	1	
中野区		
杉並		
池袋		
北区		
荒川区		
板橋区		
練馬区		
足立		
葛飾区		
江戸川		
八王子市		
町田市		
西多摩		
南多摩		
多摩立川		
多摩府中		
多摩小平		
島しょ		

東京都合計	39	2	14	18,210		21
-------	----	---	----	--------	--	----

東京都合計	1	2
-------	---	---

定点把握対象疾患 報告数【保健所別・定点当たり】 2012年6週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田				0.67	2.33					
中央区		0.33	1.67	5.67	0.67			0.33		
みなと	0.33	0.83	1.00	8.00	1.33		0.33	0.50	0.17	
新宿区	0.63	0.13	0.50	3.25	0.25			0.13		
文京			1.75	4.00	0.75			0.50		
台東	0.25		0.50	9.25	0.25		0.75	0.50		
墨田区	1.20		0.80	2.60	1.20		0.20	0.20		
江東区	0.22	0.33	2.44	10.44	2.56		0.56	1.00		
品川区			2.25	8.75	0.25		0.25	0.25		
目黒区	0.40		0.40	2.20	0.40					
大田区	0.38	0.31	2.08	9.15	2.54		0.23	0.23	0.15	
世田谷	0.13	0.19	1.31	6.19	0.69		0.06	0.13		
渋谷区				4.50	0.50	0.25	0.25	0.25		
中野区	0.14		0.57	10.00	1.43			0.29		0.14
杉並			1.90	5.60	1.30		0.10	0.20		
池袋			0.40	1.40	0.40					
北区			0.29	4.57	0.14			0.57		
荒川区	0.75	0.75	2.00	9.25	1.25		0.25	0.50		0.25
板橋区		0.20	0.70	4.00	0.40	0.10	0.10	0.40		
練馬区		0.08	1.85	6.46	1.23		0.08	0.46	0.23	
足立	0.08	0.08	1.00	6.85	0.92	0.08	0.15	0.38		
葛飾区	0.13	0.38	2.00	8.25	0.88					
江戸川	0.17	0.33	1.92	9.42	1.17		0.08	0.67		0.08
八王子市	0.36		4.82	8.45	3.09		0.45	0.91		
町田市	0.88		4.13	9.50	1.13	1.13		0.38		
西多摩	0.13		2.88	3.75	0.88			0.25		
南多摩	0.56	0.11	0.89	6.33	0.89		0.22	0.44		0.22
多摩立川	0.36	0.07	1.79	4.00	1.79			0.21		
多摩府中	0.20		1.50	4.80	1.30		0.50	0.50		
多摩小平	0.20	0.07	1.60	7.00	0.93	0.07		0.60		
島しょ				2.00			4.00			

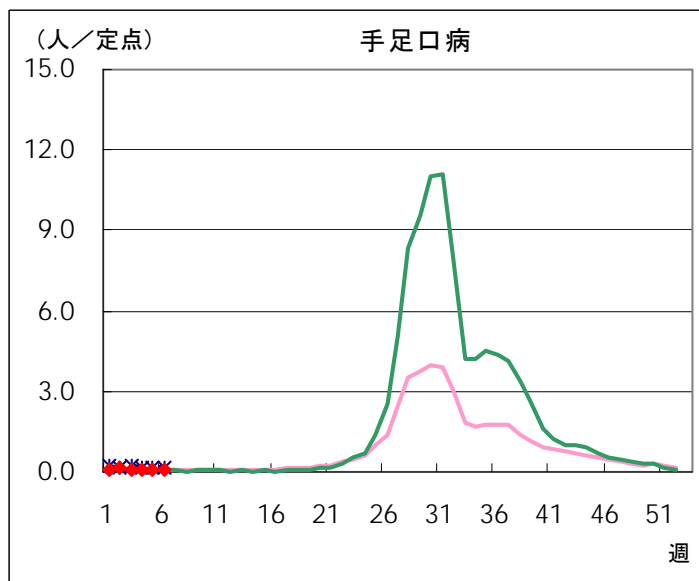
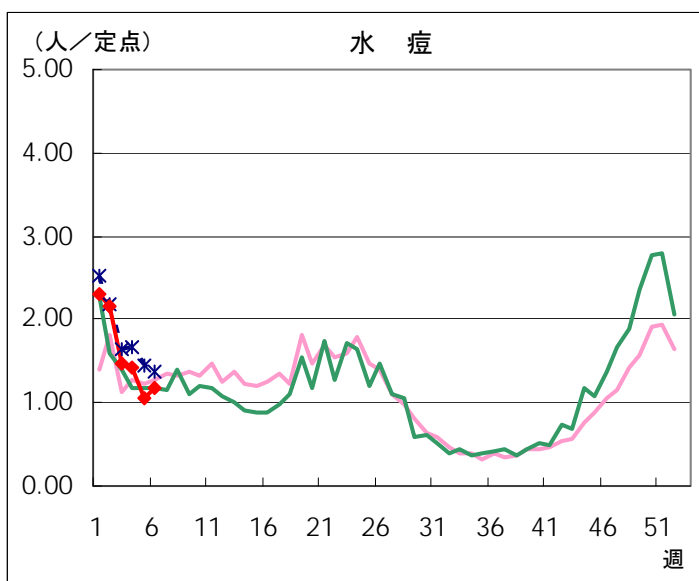
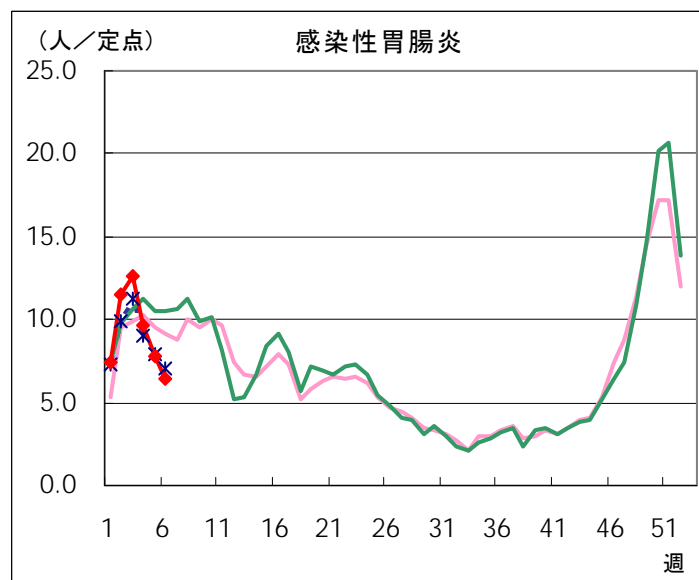
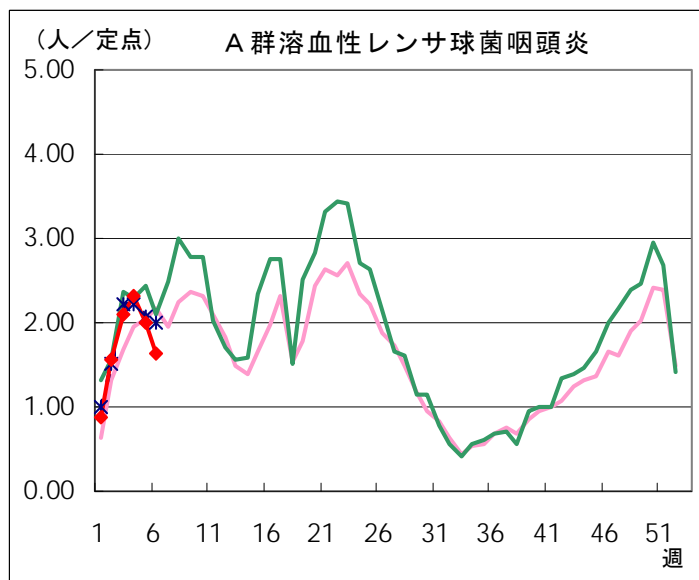
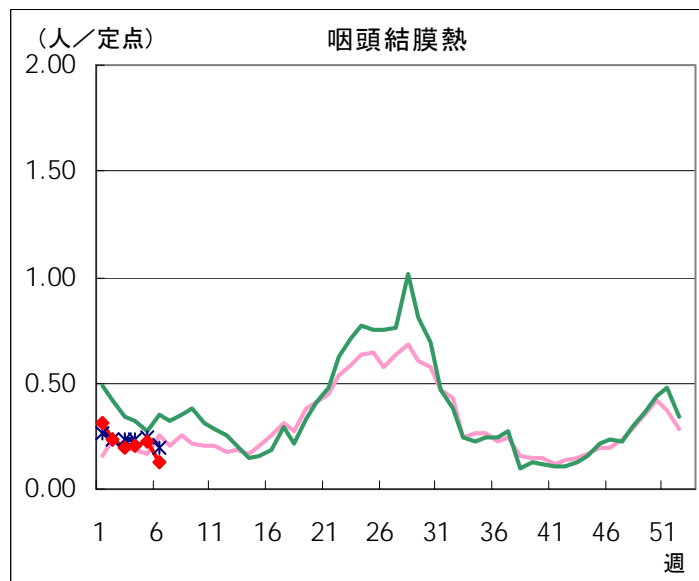
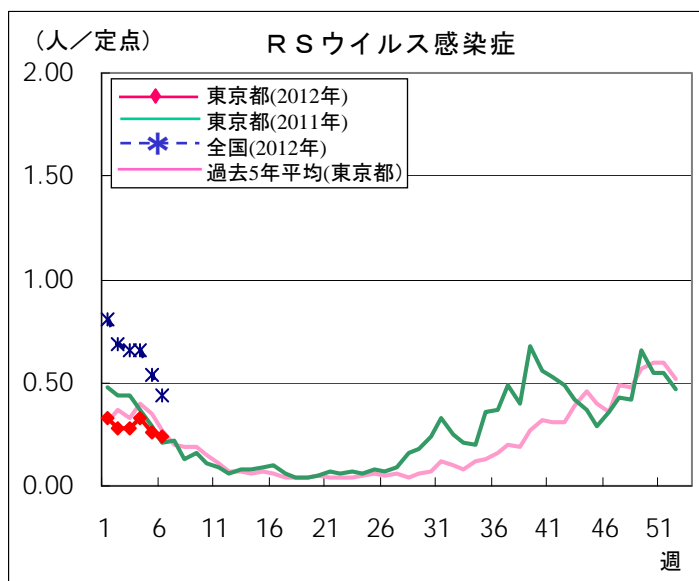
東京都	0.24	0.13	1.64	6.38	1.17	0.05	0.17	0.38	0.02	0.02
-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

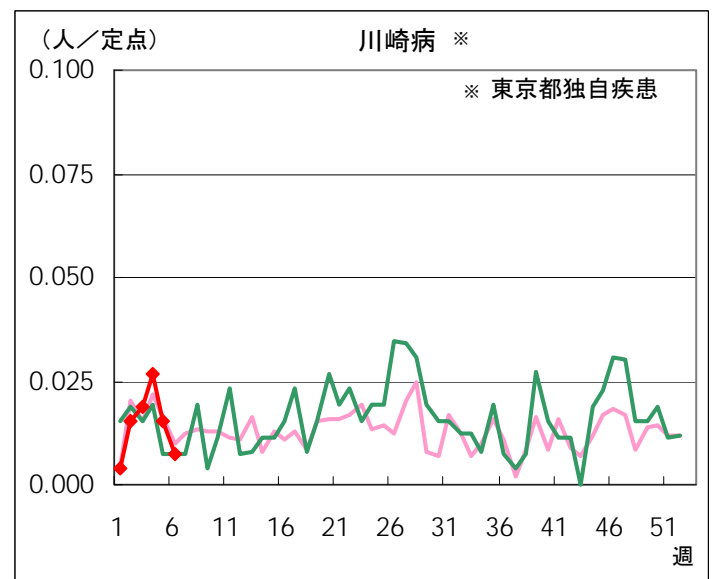
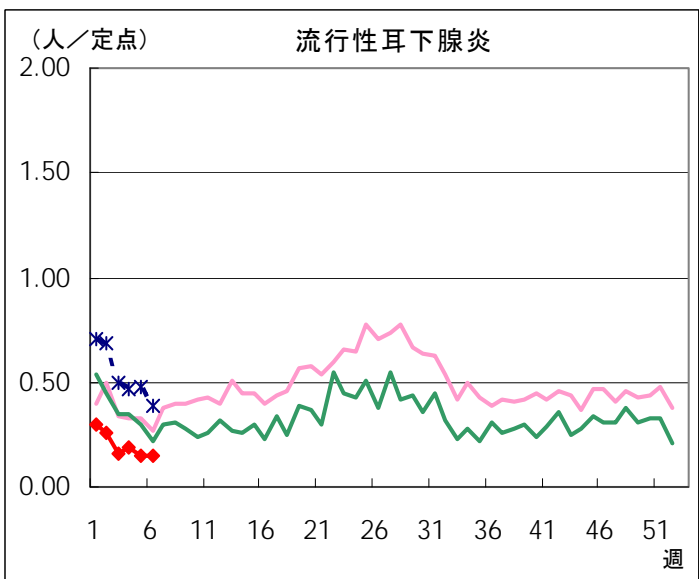
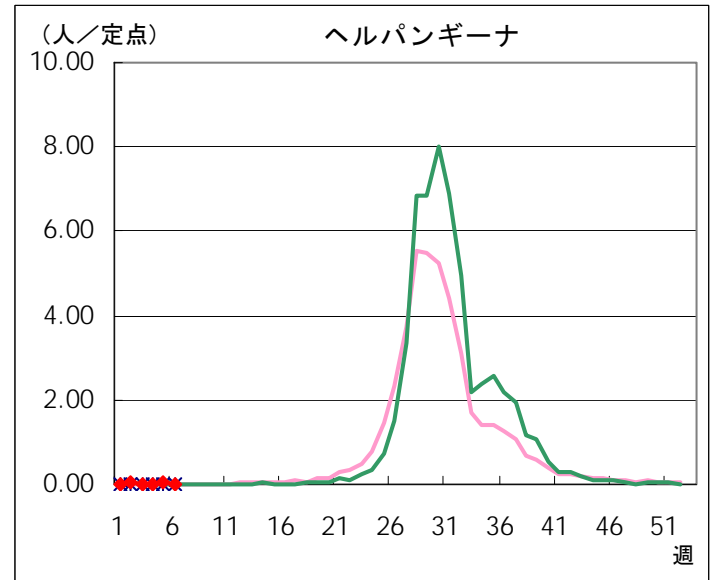
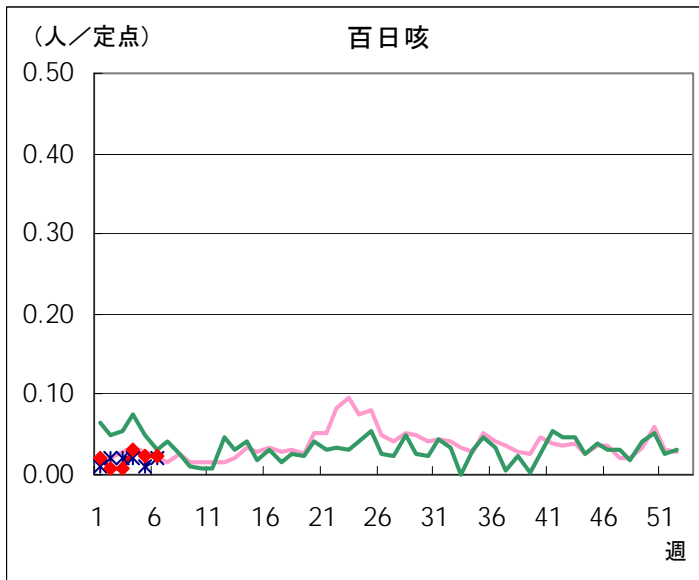
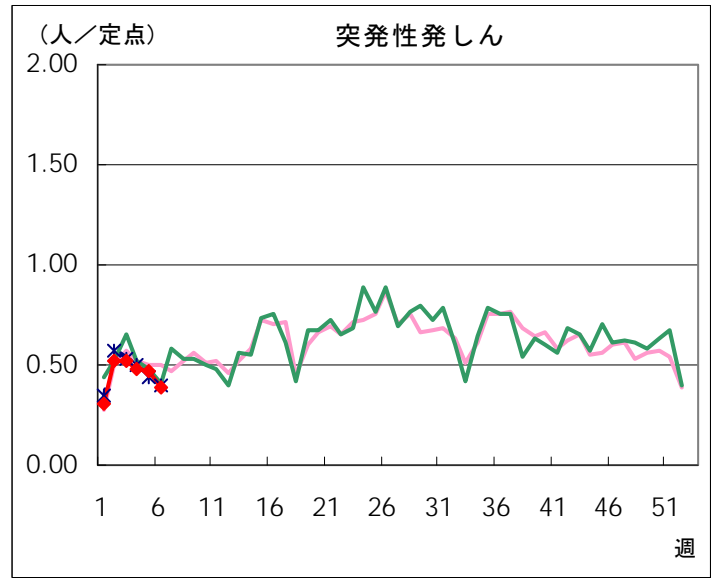
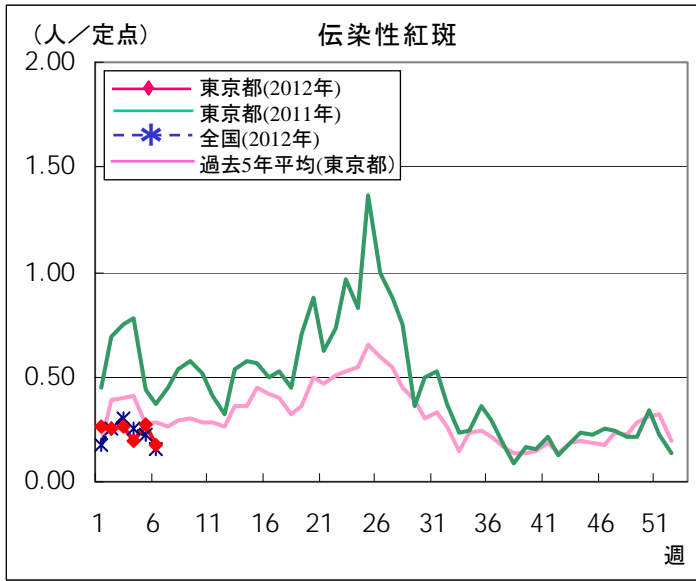
定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	川崎病	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田	0.33			24.50		
中央区	0.67			27.00		3.00
みなと				29.67		
新宿区	0.13			27.50		
文京	0.25			33.86		
台東	0.75			46.67		
墨田区				25.50		
江東区	0.22		0.33	47.21		1.00
品川区				33.08		1.00
目黒区	0.20			17.63		
大田区	0.23		0.08	54.10		
世田谷			0.13	41.20		
渋谷区	0.25			18.71		4.00
中野区	0.29			31.73		
杉並	0.30			32.81		
池袋				28.75		1.00
北区	0.57			37.27		
荒川区				63.14		
板橋区			0.10	23.00		
練馬区	0.31			51.48		0.50
足立				38.30		1.00
葛飾区	0.13		0.25	50.15		
江戸川	0.08			43.05		
八王子市	0.27			68.00		1.00
町田市	0.25		0.13	63.46		
西多摩				55.14		
南多摩	0.11			57.36		
多摩立川	0.14	0.07	0.07	40.19		0.50
多摩府中		0.05	0.05	45.72		
多摩小平	0.07		0.13	65.26		2.50
島しょ				45.00		

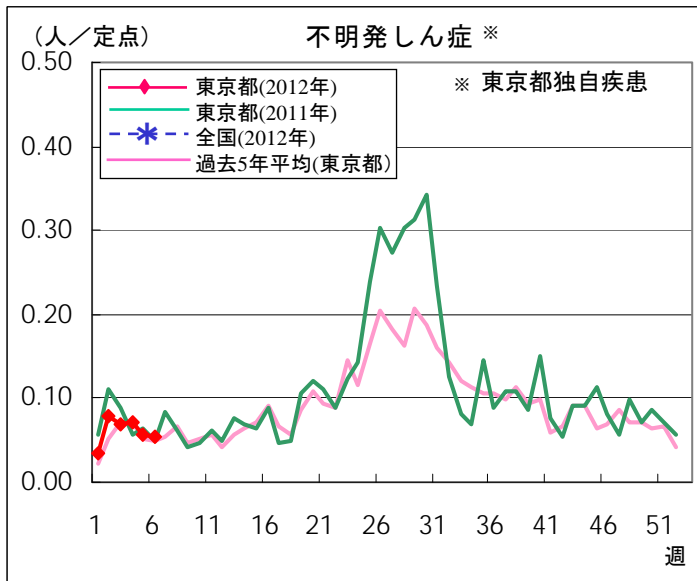
東京都	0.15	0.01	0.05	43.67		0.55
-----	------	------	------	-------	--	------

定点把握対象疾患 報告数【週別発生状況】 2012年6週現在

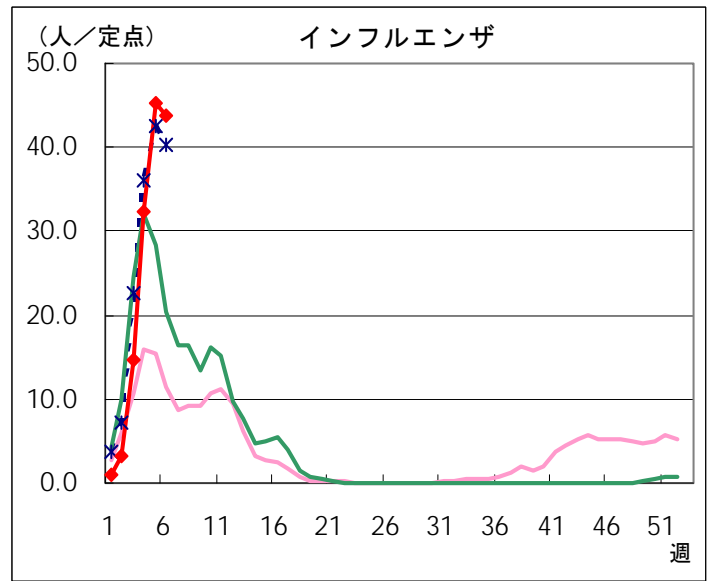
◆ 小児科定点



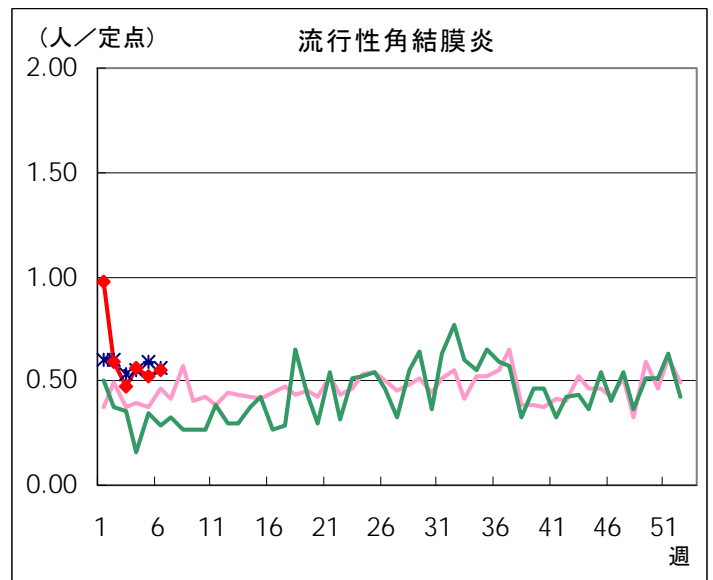
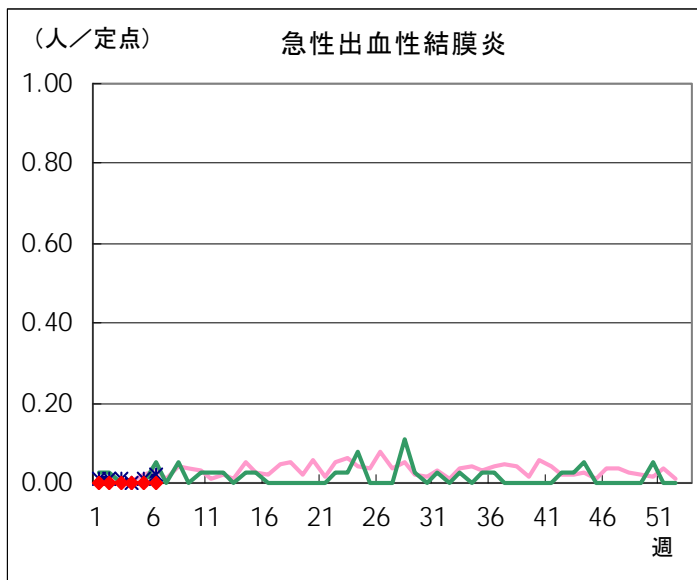




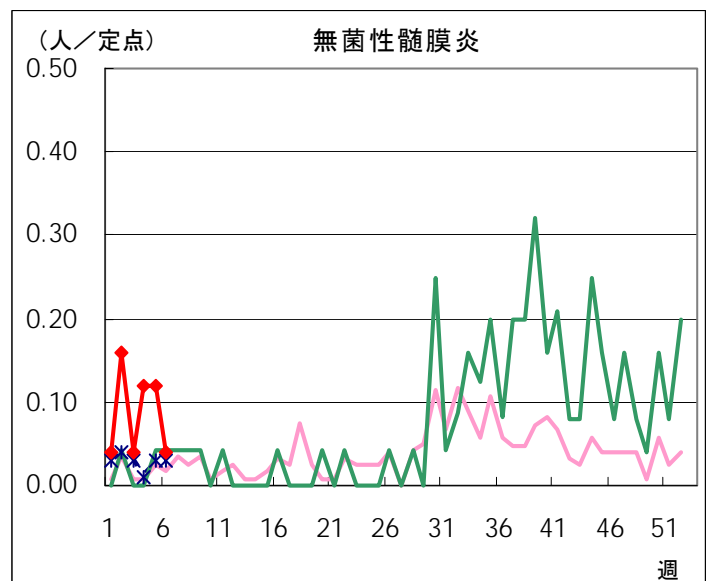
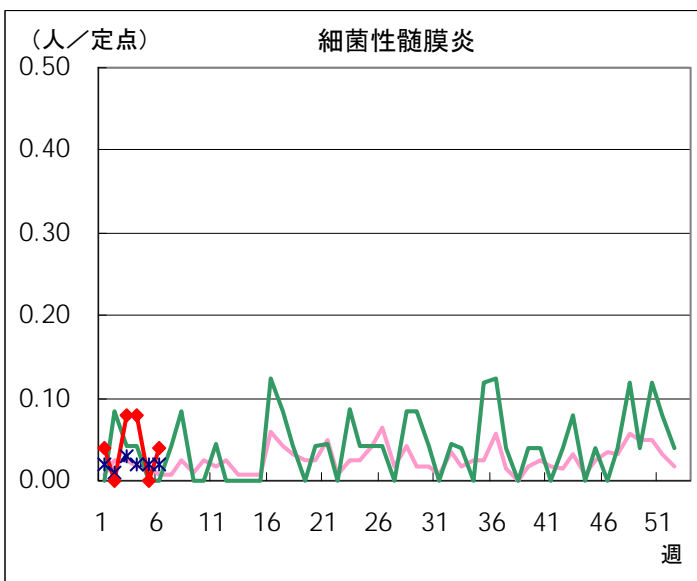
◆ インフルエンザ定点

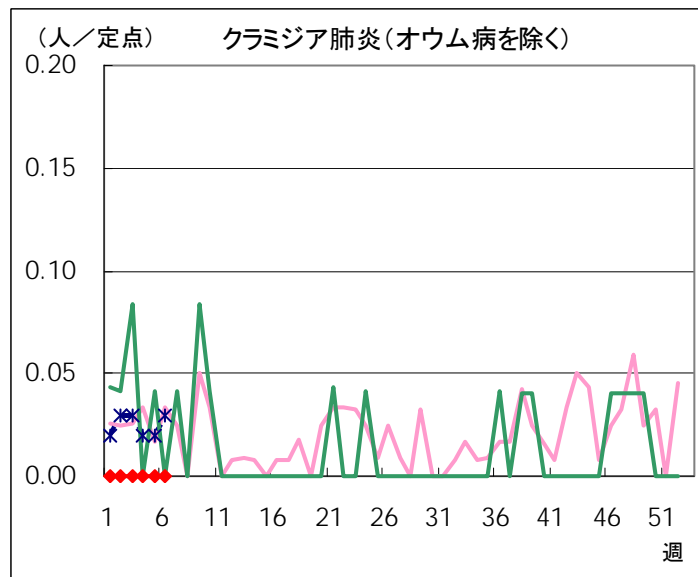
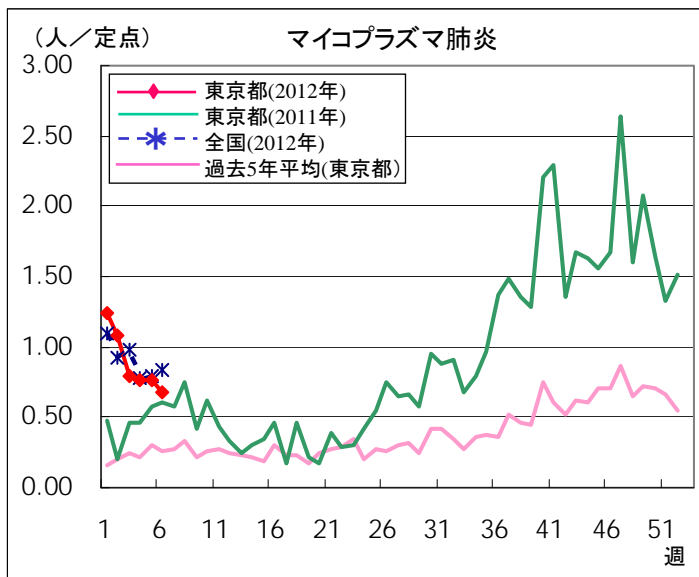


◆ 眼科定点

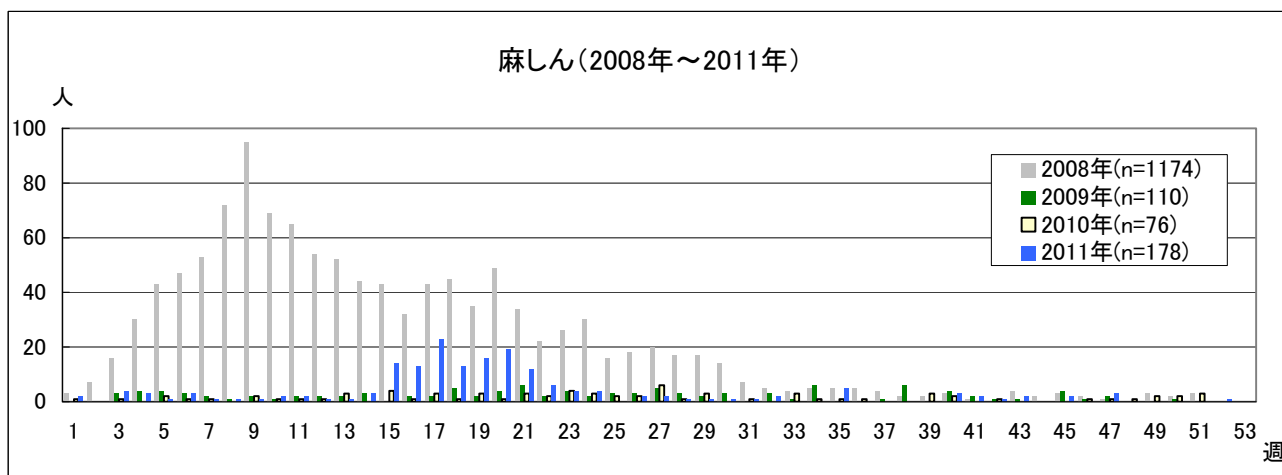
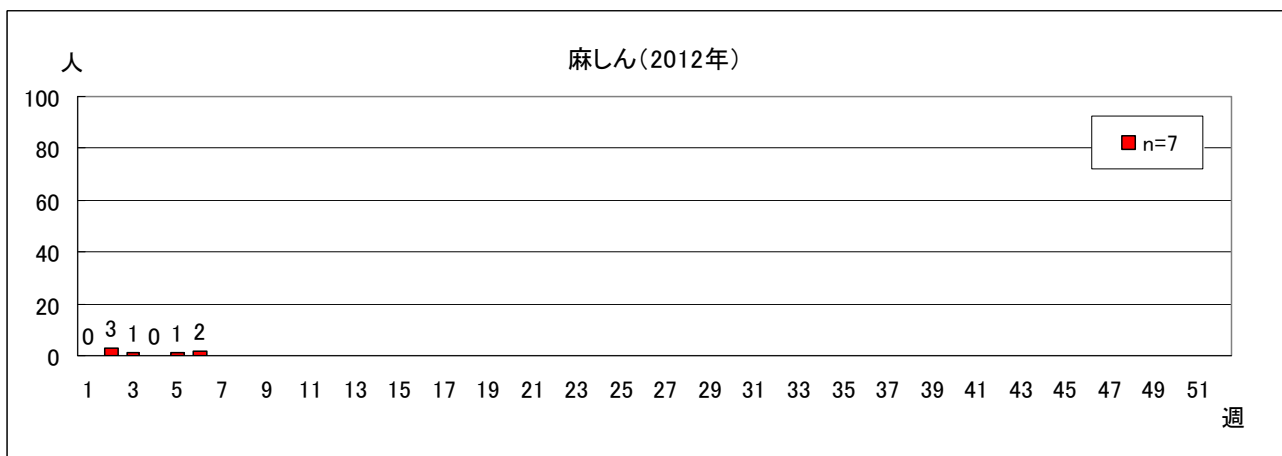


◆ 基幹定点





全数把握対象疾患 報告数【週別保健所受理状況】 2012年6週現在



定点(病原体)医療機関から搬入された検体の検査情報

◇病原体検出状況

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
1/19	百日咳疑い	1M	鼻汁	百日咳菌	遺伝子
1/19	百日咳疑い	2M	咽頭拭い液	黄色ブドウ球菌(MSSA、コアグラーゼⅡ) 百日咳菌	分離
1/26	突発性発疹	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型	遺伝子
1/27	風疹疑い	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型	
1/31	発疹症	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型、7型	
1/30	RSウイルス感染症	1	鼻汁	RSウイルス	
2/2	発疹(水痘)	1	咽頭拭い液	ライノウイルス	
1/31	感染性胃腸炎(ノロ)	1	糞便	ノロウイルスG2	
2/1	感染性胃腸炎	1	糞便	A群ロタウイルス	抗原
1/26	EBウイルス感染症	2	咽頭拭い液	EBウイルス	遺伝子
2/3	流行性耳下腺炎	2	咽頭拭い液	ムンプスウイルス	
1/30	インフルエンザA・歯肉口内炎	4	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスAH3型※ 単純ヘルペスウイルス	
1/17	溶連菌感染症	4	咽頭拭い液	黄色ブドウ球菌(MSSA、コアグラーゼⅦ)	分離
1/19	急性咽頭炎	5	咽頭拭い液	A群溶血性レンサ球菌(T28,SPE-B+C)	遺伝子
1/27	不明熱	5	咽頭拭い液	アデノウイルス	
1/30	急性咽頭炎	5	咽頭拭い液	アデノウイルス	分離
1/19	急性咽頭炎	7	咽頭拭い液	A群溶血性レンサ球菌(UT,SPE-B)、 黄色ブドウ球菌(MSSA、コアグラーゼⅠ)	
1/29	髄膜炎	8	咽頭拭い液	エンテロウイルス	遺伝子
1/19	急性咽頭炎	9	咽頭拭い液	黄色ブドウ球菌(MSSA、コアグラーゼⅤ)	分離
1/19	急性扁桃炎	10	咽頭拭い液	A群溶血性レンサ球菌(B3264,SPE-B)	遺伝子
1/27	不明熱	11	咽頭拭い液	アデノウイルス インフルエンザウイルスB型※	
1/13	マイコプラズマ肺炎疑い	11	咽頭拭い液	マイコプラズマ	
2/1	インフルエンザ	33	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスAH3型※ ライノウイルス	分離
12/14	汎発性腹膜炎	51	腹水	バンコマイシン耐性腸球菌 (遺伝子型 <i>vanC</i>)	遺伝子
1/31	耳下腺炎	?	咽頭拭い液	EBウイルス、ムンプスウイルス	

※ 下記「遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型別検出件数」の集計数に含まれる。

◇遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型別検出件数

検出件数	インフルエンザウイルス			
	AH1pdm09*	AH1	AH3	B
6週			28	11
2011-2012年 シーズン累計	1		128	24

* 2011年4月1日から新型インフルエンザ(AH1N1pdm)が季節性インフルエンザに移行されたため、表記を AH1pdm09 とします。

** 2011-2012シーズンの開始は第36週(2011年9月5日～)

◇定点医療機関からのインフルエンザに関するコメント

各定点医療機関からいただきました、インフルエンザ迅速診断結果とコメントを下表にまとめました。

管轄保健所名	インフルエンザ 迅速診断結果			医療* 機関数	備 考
	A型	B型	記載なし		
千代田	16	4	10	1	
新宿区	83	19	1	3	・A型43名のうち予防接種者17名。例年に比し、予防接種者の発症多し。
台東	92	53	35	5	・A型・B型共に出ています。 ・25才 A型B型両方同時感染
墨田区	120	14		5	
江東区	334	208	78	13	
品川区	121	41		5	
目黒区	91	32	2	6	
大田区	233	93	59	9	
世田谷	261	129	89	13	・迅速検査A・Bどちらも陽性1名 ・まだ流行中。B型が、先週よりかなり増加。 ・A型がB型より多いのが、世の中一般的になりつつある。
渋谷区	31	9	9	3	
中野区	278	58	13	11	
杉並	96	19		4	・B型が25%程
池袋	33	15	20	3	
北区	178	94	3	6	
荒川区	189	76		3	
板橋区	10	5		2	
練馬区	276	56	68	6	
足立	155	115	3	4	
八王子市	494	137	12	8	
町田市	126	46	26	4	
西多摩	322	124	78	7	・2/11よりB型の人が増加？
南多摩	454	139	128	13	・平熱36℃代でインフルエンザ判定陽性の人があります。肺炎の合併症2名 ・高齢者のインフルエンザが増加。 A型インフルエンザが圧倒的に多く、B型は1名のみでした。
多摩立川	35	36	135	6	
多摩府中		4	13	1	
多摩小平	385	110	106	11	
島しょ	81	2		1	
合 計	4,494	1,638	888	153	

* 迅速診断結果をご報告いただいた医療機関数

病原体検査情報【検出病原体別・週別】

検出病原体		2011年			2012年				
		50週	51週	52週	1週	2週	3週	4週	5週
ウイルス	アデノウイルス	5	4		2	3	2	5	3
	ライノウイルス	4	2	3	1		3		2
	ポリオウイルス								
	コクサッキーウイルスA群								
	コクサッキーウイルスB群								
	エコーウイルス								
	エンテロウイルス71								
	その他のエンテロウイルス	2	1		2	2	2	1	2
	単純ヘルペスウイルス		3	1		1			1
	水痘・帯状疱疹ウイルス	1							
	ヘルペスウイルス6/7	4	1		4	1	2	3	3
	EBウイルス		2		2		1		1
	サイトメガロウイルス			1			1	1	
	ムンプスウイルス	1	2				1		2
	麻疹ウイルス								
	風しんウイルス						1		
	パルボウイルスB19							1	
	RSウイルス	3			3	1			1
	ノロウイルス	3	2	3		3	8	1	1
	ロタウイルス								1
	インフルエンザウイルスAH1								
	インフルエンザウイルスAH3	2	4	1	3	9	34	29	28
	インフルエンザウイルスB					2	2	7	11
インフルエンザウイルスAH1pdm09				1					
デングウイルス(抗体を含む)									
その他のウイルス			1						
細菌	カンピロバクター								
	サルモネラ								
	腸管出血性大腸菌								
	その他の腸管系病原菌								
	溶血性レンサ球菌	3	1				3		
	百日咳	1					2		
	マイコプラズマ	1				1			
	その他の細菌	2					3		
その他の病原体									

病原体検査情報【検出病原体別・臨床診断名別】

2011年50週～2012年5週

臨床診断名 検出病原体		インフルエンザ	上気道炎	下気道炎	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	咽頭結膜熱	A群溶連菌咽頭炎	流行性角結膜炎	ヘルパンギーナ	手足口病	伝染性紅斑	不明発しん症	流行性耳下腺炎	水痘	麻疹	風しん	その他	
搬入検体数		143	26	22	31	16	8	5	5		2		18	6	4	2		92	
ウイルス	アデノウイルス	5	3	1	1		3		1				2					8	
	ライノウイルス	2	1	3	3								1		1			4	
	ポリオウイルス																		
	コクサッキーウイルスA群																		
	コクサッキーウイルスB群																		
	エコーウイルス																		
	エンテロウイルス71																		
	その他のエンテロウイルス	2	2	1	1	1			1		1		1	1				1	
	単純ヘルペスウイルス						2	1											3
	水痘・帯状疱疹しんウイルス										1								
	ヘルペスウイルス6/7													8					10
	EBウイルス		1	1											2				2
	サイトメガロウイルス		1																2
	ムンプスウイルス						2								4				
	麻疹ウイルス																		
	風しんウイルス													1					
	パルボウイルスB19													1					
	RSウイルス			6															2
	ノロウイルス				19														2
	ロタウイルス				1														
インフルエンザウイルスAH1																			
インフルエンザウイルスAH3	106						1						1					2	
インフルエンザウイルスB	21																	1	
インフルエンザウイルスAH1pdm09	1																		
デングウイルス(抗体を含む)																			
その他のウイルス				1															
細菌	カンピロバクター																		
	サルモネラ																		
	腸管出血性大腸菌																		
	その他の腸管系病原菌																		
	溶血性レンサ球菌		1	3				3											
	百日咳		1															2	
	マイコプラズマ			2															
	その他の細菌			3				1										1	
その他の病原体																			

<感染症豆知識>

肉の生食について（新制度の周知）

生食用牛肉の規格基準が10月1日から施行された。厳しい基準ゆえに各メディアからこぞって裏メニューで提供する事業者についての報道等がなされたが、確実に規格基準を遵守し、病原微生物に汚染されていない生食用牛肉を提供することが、公衆衛生の向上につながると考えている。ここでは、以下のとおり生食用牛肉の作り方などの新基準について簡単に説明する。

1 生食用牛肉の範囲とは

凍結していない枝肉から衛生的に切出し、気密性のある容器包装に入れ密封した後、肉塊の表面から1cm以上の深さを60℃で2分間以上加熱殺菌する等、新たに規定された規格基準に基づき加工をされた牛肉（腸内細菌科菌群 陰性）をいう。

2 対象となる食品

生食用として提供する牛刺し、牛タタキ、ユッケ、タルタルステーキなど。

3 飲食店などで生食用牛肉を調理する場合の基準

生食用として規格基準に適合した牛肉を仕入れ、細切などの調理だけを行う事業者が満たさなければいけない主な調理基準は、以下とおりである。

- (1) 生食用牛肉の調理は、他の設備と区分された場所で行うこと。また、専用の手洗い・シンク、器具や手指の消毒設備及び専用の調理器具が必要。
- (2) 使用する生食用牛肉は、生食用として適切に加工されたものを仕入れること。
- (3) 生食用牛肉の調理は、食品衛生責任者又は東京都などが認定した食肉の衛生等に関する講習会（3時間）を受講した者が行うこと。
- (4) 生食用牛肉は、4℃（冷凍状態のものは-15℃）以下で保存すること。
- (5) 調理後は速やかに提供すること。

今回、生食での提供に関する規格基準が設定されたのは牛肉（内臓肉を除く）だけである。

鶏刺し、牛レバーなどの生肉料理によるカンピロバクターや腸管出血性大腸菌による食中毒も多発しており、都は生での提供は控えていただくよう業界・事業者に対して指導している。

なお、厚生労働省において、牛生レバーについても規格基準化の検討がなされており、今後の動向が注目されている。

詳細については東京都福祉保健局のホームページ「食品衛生の窓」へ。

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/shokuhin/namashoku/index.html>

（文責 東京都福祉保健局 田崎達明）